

## 2017 春季生活闘争 ふくしま労働シンポジウム

# 復興・創生の針路「復興の苦しみは、依存の苦しみ」

## ～福島銀行 働き方改革の取り組みと成果を学ぶ～

連合福島は、この程2月2日（木）13時30分～福島市「ラコパふくしま」において、「2017春季生活闘争・ふくしま労働シンポジウム」を開催し、約200名が参加する中で、認識を深めた。今年も労働組合のみの内部のメンバーとはせず、労働局や県、そして経営者団体や議員団の各層から多くの参加も得る地域に開かれた場とし、抱える課題やこれからの取り組みについて、相互に共有をはかりながら、それぞれの立場で今後につなげ生かすとの趣旨で設営し、オールふくしまをイメージできる有意義な時間となった。冒頭主催者挨拶で今泉裕会長は、「発災から間もなく6年、被災地の復興は着実に前に進んではいるものの、まだまだ長い時間を要する。一つには風評と風化の問題は、私たち自身も顧みながら、注力していかなければならない。除染の問題、そして人口減少にからんだ本来の自治体創生と復興とのかねあいは大きな課題。これは自治体毎の進捗度の差、また復興の苦しみは依存の苦しみであり、個々の意識の変化なども考慮すれば、それぞれの自治体づくりがどうなっていくのか、難しいが、乗り越えなければならない。連合福島としても支援を継続して参りたい。その意味で、今次春闘も復興の後押しとなるような成果につながるよう、是非労使の十分な話し合い中で、導き出していただくよう期待したい。」と挨拶した。続いて、復興庁福島復興局・木幡浩局長より「福島



挨拶をする連合福島今泉会長



復興庁・福島復興局  
木幡 浩 局長

の復興・創生へ～オールふくしま～」と題した基調講演を通じて、詳細にわたる発災からの動向や取り組み、今とこれからの課題や展望などについてお話をいただいた。そして、株式会社福島銀行組織開発部・鈴木岳伯部長からは「働き方改革の取り組み内容と取り組み効果について」と題して、企業における先進事例やそれに至る動機や人財への思いなどが触れられる内容の講演をいただいた。



(株)福島銀行 組織開発部  
鈴木 岳伯 部長

最後に、司会役の加藤光一事務局長から、「貴重な講演で感じ取っていただいたことを、それぞれのお立場での今後に生かしていただければ大変ありがたいと思います。」と理解と共有を求め、シンポジウムを閉じた。



会場は各層からの約180名の参加者で埋まる